被爆者

６０年目のことば

会田法行作・写真　ポプラ社

原爆投下から六十年。広島と長崎に生きる六人の被爆者のことばを、写真と共に紹介した本。高齢化が進み、彼らに残された時間は少ない。被爆者の口から語られた生きたことばは、それが過去の出来事ではなく、いまなお深い悲しみが消えることなく彼らをつつんでいるのだということをぼくらに教えてくれる。

ぼくたちは過去から学び、現在を見つめ、未来を創っていかなくてはならない。表紙の女性、片岡津代さんの真剣でまっすぐな眼差しから、決して目を背けてはならない。